

2022年度
(令和4年度)

国内放送番組編集の基本計画

放送総局

編集の基本方針

私たちの放送・サービスのすべての礎になるのは、視聴者のみなさま一人ひとりの声です。この原点に改めて立ち返り、全ての人に「安全・安心」、「正確・良質」で多様なコンテンツを届け、信頼される「情報の社会的基盤」としての役割を果たす取り組みを強化していきます。テレビ保有率の低下やインターネット利用時間の増加、グローバル配信事業者の台頭、民放の同時配信サービス開始など、メディア環境は大きく変化しています。こうした中、放送だけでなくNHKプラスでの同時・見逃し配信サービス、ホームページやSNSといったインターネット、DX（デジタルトランスフォーメーション）を意識した最先端のAI技術などを駆使しながら、公共メディアのNHKだからこそお届けできる放送・サービスの実現を目指します。

視聴者のみなさまからの信頼を向上させるために、放送法で定められた公共放送の基本姿勢を堅持します。自主自律と不偏不党を貫き、表現の自由を守るとともに、健全な民主主義の発達に資する放送・サービスを提供します。正確な情報を公平・公正に伝え、豊かな文化を創り守りながら、多彩で質の高い番組を追求します。

新型コロナウイルスの感染拡大からおよそ2年。先行き不透明な時代を生きるすべての人々に、必要な情報を提供します。また、数十年に一度の大雨や超大型台風、猛暑といった世界的な気候変動、どこでも起きうる大地震など、私たちの暮らしは自然災害と隣り合わせです。視聴者のみなさまの安全・安心につながる情報を正確、かつ、迅速に、さまざまな媒体を通じてお届けしていきます。

国連が定めた持続可能な開発目標、SDGsの17の目標を意識したコンテンツを積極的にお伝えします。そして、“東京2020”でのユニバーサル放送（字幕放送・解説放送・手話放送など）の知見も生かしながら、多様性を尊重し、ともに支え合いながら生きる社会の実現を後押しします。地域社会への貢献にも力を尽くします。NHKの強みである全国ネットワークを最大限に生かし、地域の発展を支援します。

2023年2月はテレビ放送開始70年の節目です。NHKは、受信料の重みを常に意識しながら、視聴者のみなさまの声を大切に、正確な報道、暮らしに役立つ情報、教育番組、ドキュメンタリー、さまざまな人が楽しめる娯楽など、公共メディアに求められるコンテンツを提供し、信頼の獲得に努めます。

編集の重点事項

1. 一人ひとりの命を守り、安全で安心な暮らしに貢献

新型コロナウイルス感染症を克服し、どう社会経済活動との両立を図ってゆけばよいのか、世界中で模索が続いています。ワクチンや新しい治療薬、経済との両立施策など、最新の動きを取材してお届けします。また、新型コロナウイルスを含めて、世の中には、医療や健康に関する不確かな情報があふれています。科学的根拠に基づいた正確な情報を、わかりやすく深く伝えます。コンテンツの提供を通じて、みなさまの健康寿命を延ばすことに貢献します。

自然災害で被害を受ける人を一人でも減らすために、想定される被害の情報提供や避難の呼びかけをいち早くおこなったり、自動音声を使って、刻一刻と変化する気象情報を終夜で丁寧にお伝えしたりします。また、大規模災害が発生した際には、全国の放送局と本部が連携して被災地に必要な情報を届け、柔軟な編成で地域によりきめ細かな情報を伝えます。テレビとラジオ、インターネットをのり的確な情報を全国発信し、命と暮らしを守る報道に全力を尽くします。

新型コロナウイルス後遺症や経済の再生、東日本大震災をはじめとする全国の被災地の復興支援、原発事故後の記録などについて継続取材し、課題を伝えます。

2. 持続可能な社会を目指し、日本と世界の課題を発信

地球規模で深刻化する気候変動と温暖化、世界で広がる経済的な格差、少子高齢化の日本で膨らみ続ける社会保障費など、先送りできない課題が山積しています。

国連が定めたSDGsの17の目標を踏まえながら、どうしたら持続可能な社会を築けるのか、視聴者のみなさまと課題を共有し、解決の道筋を考えていきます。そのために、NHKは、正確で公平・公正な情報を、早く、深く、わかりやすく伝え、判断のよりどころとなる「情報の社会的基盤」の役割を果たします。意見が対立している問題については多くの角度から論点を明らかにし、広く議論の場を設けます。それぞれのテーマについて、番組だけでなくデジタルコンテンツやイベントなどで視聴者のみなさまとつながり、情報提供や議論への参加を積極的に進めます。

3. 幅広い視聴者に応える、多彩で質の高いコンテンツを提供

1世帯当たりの人数の減少と家族構成の変化、インターネットによる動画視聴の一般化など環境が激変する中で、視聴者のみなさまの期待や関心の多様化が進んでいます。NHKに求められるニーズをきめ細かく把握・分析し、ニュース、スポーツ、教育、福祉、暮らし、教養、趣味、実用、ドラマ、エンターテインメント、伝統芸能、アニメなど多彩なジャンルで、豊かで質の高いコンテンツをお届けします。また、NHKの公共的価値を実感できるキャンペーンを実施し、社会に貢献することを目指します。合理的なコストでできるだけ多くの方にコンテンツの魅力を伝えるために、これまで以上にマルチユースを進めます。

地上波の番組では、NHKプラスでの同時・見逃し配信サービスを、PC・スマートフォン・タブレットでの視聴に加えて、新たにテレビでも見逃し番組をご覧いただけるよう拡充し、みなさまの生活スタイルに合わせた視聴が可能になるよう努めます。また、インターネットサービスでは、放送では伝えきれなかった情報を提供し、番組内容の理解増進に寄与します。放送とデジタルが連動してサービスの進化を目指し、視聴者のみなさまの利便性向上に尽力します。

4. 地域情報の全国発信を強化し、各地域の発展に貢献

各地の放送局は地域に根ざした取材・制作に尽力し、みなさまの関心の高いテーマや固有の課題などを積極的に取り上げて、地域社会に貢献します。

地域で制作したニュースや情報番組などを全国放送でも編成して“地域の今”をお伝えします。また、全国ネットワークを生かして各地の放送局が協力し、自然、文化、歴史、人々の営みなど、その地域ならではの魅力を発掘。地域を応援する全国放送のコンテンツを積極的にお届けします。

NHKプラスは地域番組の配信拡充を一層進め、NHKならではのネットワークを生かして、各地域のコンテンツをより多くの方にお届けします。

いざから大阪拠点放送局と各地の放送局の連携を強めて、東京の放送センターの代替機能を強化。また、地域が災害に見舞われた際は、本部をはじめ全国の放送局が協力して支援をし、確実に放送・サービスを提供します。

5. 多様な価値を認め合い、

ともに生きる社会を目指した放送・サービス

すべての人が多様な価値観を大切にしてお互いの人格と個性を尊重し合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる「共生社会」の重要性を再認識し、その実現を後押しします。

障害のある人もない人も、あらゆる性自認、性的指向の人も、そして年齢や国籍に関わりなく、多様な私たち一人ひとりが、自分らしく生き生きと暮らせる社会の実現には、どのような課題があり、どのように取り組めばよいのか。ニュースや多彩なジャンルの番組、デジタルコンテンツ、イベントなどさまざまな形で現実や課題を伝え、視聴者のみなさまとともに、解決の道筋を探っていきます。

字幕放送・解説放送・手話放送などのユニバーサル放送・サービスについては、これまで以上に、見やすく、聞きやすく、安心して視聴できるよう、さらなる工夫を積み重ね、充実に取り組みます。また、出演者の選定にあたっては、ジェンダーや新たな視点を意識し、多様性の観点を踏まえた取り組みを継続します。

6. 青少年や子どもの教育と健全な育成、

“人生100年時代”の学びを支援

新型コロナウイルスの感染拡大は、子どもたちの学習環境を大きく変えました。学びを守るためには何が必要なのか。教育現場が抱える課題を伝えるとともに、子どもたちの興味・関心に応え、親子が安心して視聴できる番組やデジタルコンテンツを充実。子どもたち一人ひとりの端末での学習に対応した形で、学びをサポートします。豊かで活力ある社会を作り上げるために、次の時代を担う青少年や子どもの教育と育成を支援することは、公共メディアの重要な使命です。

また、“人生100年時代”、大人の知的好奇心を満たすコンテンツの充実にか力を入れています。幅広い教養の獲得や学問の深い探求、新しい知識・技術の学び直しを可能にする番組を放送するとともに、デジタルサービスでは、より掘り下げた情報や短時間で学びやすい動画など、媒体の特性を生かした形で提供します。

7. 分断ではなく対話を 日本と世界の相互理解を促進する発信を強化

新型コロナウイルスのワクチン接種をめぐる意見対立、各地で深刻化する人道危機、大国間のおつれき。“分断”のキーワードは、今も世界を覆い続けています。

世界で何が起きているのか、どうすれば多様性を尊重する価値観が浸透し、“対話”につながるのか。国際社会の相互理解を進めるため、世界の情勢や各国の動向を正確な情報で深く伝えます。

また、世界各地の魅力あふれる大自然や生き物、文化、芸術、遺産などを、超高精細映像も活用して記録し、多様なコンテンツで紹介します。日本の魅力や文化についても、コンテンツの国際展開などを通じて、広く世界に発信します。

8. “東京2020”のレガシーを生かし、放送・サービスを充実

緊急事態宣言が発出される中、原則無観客という異例の形で開催された東京オリンピックとパラリンピック。コロナ下でも、最高のパフォーマンスを発揮しようと力を尽くすアスリートの姿と、勝敗に関係なく、互いを鼓舞し、たたえ合う姿勢は、スポーツ本来の意義を思い出させてくれました。

この“東京2020”で得た知見を、次の時代の放送・サービスに継承していきます。まず、オリンピック・パラリンピックそれぞれで認知度が上がった競技を含めて、幅広い世代の興味に即したスポーツの魅力をお伝えしていきます。また、生放送でも字幕をぴったりあわせる技術を活用した番組など、ユニバーサル放送・サービスの進化に努め、障害の有無や年齢に関わらず、誰もがわかりやすい放送を目指します。

“東京2020”をきっかけに充実した技術やサービスを次につなげ、多様な価値観を認め合う共生社会実現に向けたメッセージを発信し続けます。

これらの重点事項は、以下の基本的な考え方に基づいて実施します。

○NHKは公共メディアとして、特定の指標に偏らず、多角的な視点から、コンテンツを評価することが重要であると考えています。これまでの質的、量的評価の指標に加え、デジタルでの視聴、リアルイベントなど、多様な観点でコンテンツやジャンルごとに的確に評価を行います。

○昨年度、「新しいNHKらしさ」を追求するため、「波」別の個別番組管理から、より全体をふかんでみる、10の「ジャンル」別の総合管理へ転換しました。それぞれのジャンルに対する、視聴者のみなさまのニーズを把握・分析した結果に基づき、予算や制作総量などの資源を適切に配分します。さらに、それぞれのジャンルで強化方針を明確にし、視聴者のみなさまにお届けする放送・サービスの価値を最大化します。

○放送・デジタルサービスなどすべてにおいて、自らの発信が「公平・公正」で「正確」な内容であるのか、また、人権や多様な価値観を尊重しているのか、メディアリテラシーの向上に努めながら不断に評価・検証し、放送倫理やコンプライアンス意識を徹底します。長年培ってきた取材力・制作力を発揮して、事実に基づく確かな情報の提供と質の高いコンテンツの制作に努めます。

○ウィズコロナを前提に、NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意して、リモートを積極的に活用したコンテンツ制作を推進。表現の新たな可能性も追求します。創造的で活力ある職場を構築するために、リモートワーク推進・業務フローの抜本的見直しなどの働き方改革やダイバーシティ施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。

○2K（ハイビジョン）・4K・8K番組の一体制作、国際放送向け番組・地域向け番組・全国向け番組のマルチユースなど、さまざまな放送波・時間帯での番組のマルチユースをさらに進め、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。

各波の編集方針

総合テレビジョン

公共メディアの基幹波として、信頼される「情報の社会的基盤」の役割を果たすため、正確・迅速かつ公平・公正で社会の指針となるニュースや、文化・娯楽・スポーツなどの多彩な番組を編成します。全国ネットワークの強みを生かし、地域サービスの向上を図ります。また、さまざまな手法で社会的な課題の解決に取り組むキャンペーンを展開します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン（Eテレ）

子どもから大人まで、“人生100年時代”の教育放送として、幅広い世代に向けた教育、福祉、教養、趣味、実用など、多彩な番組を編成します。番組とインターネットの連携強化、配信コンテンツの充実、家庭での学習を意識した番組の開発など、学びの機会を広げます。また誰もが楽しめるユニバーサル放送・サービスをより充実させ、共生社会の実現を目指します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS 1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「スポーツ」「国際」「ドキュメンタリー」「地域」の4分野を軸に、刻々と変化する視聴者のみなさまの関心によりと応えていきます。

ウィズコロナの時代に大きく変わりつつある世界や人々の動きを、正確かつ多角的に伝えるニュースやドキュメンタリーを編成します。東京オリンピック・パラリンピックを通じて得られた知見や成果を継承し、新しいスポーツ番組の開発を行うとともに、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す番組にも注力します。また、地域関連番組にも力を入れ、豊かな日本の魅力を発信するとともに、地域固有の課題を広く伝えます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

個性と見応えを追求した多彩な知的エンターテインメント番組を提供します。自然、文化、歴史、芸術、趣味、ドラマなど、さまざまなジャンルで“本場”“一流”“最前線”にこだわったスケール感のある番組を届け、格別な満足感を得られるチャンネルを目指します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

BS4K

4Kの機動力と高画質の魅力を生かした幅広いジャンルの番組を提供し、超高精細映像チャンネルの先導的な役割を果たします。2Kと4Kの一体制作を進めるとともに、良質なアーカイブ映像の4Kリマスターを推進し、BS4Kの普及に向けて多彩な番組を提供していきます。

〔放送時間〕

○1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

BS8K

新しい視聴体験に挑戦する世界最先端のメディアとして、未知なる映像文化を切り開く番組を提供します。また、未来に残すべき文化財や芸術を最高水準の映像で記録し、社会貢献の役割を果たします。8Kの特性を生かした臨場感あふれる中継にも取り組み、最高水準の放送サービスの実現に寄与します。

〔放送時間〕

○1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

ラジオ第1放送

安全・安心を担う音声基幹波として、命と暮らしを守る情報を届けます。また、多様なジャンルの番組をバランスよく提供し、さまざまな世代のリスナーに支持されるよう編成します。さらに、デジタル展開は、インターネットラジオ「らじる★らじる」を中心に積極的に推進します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、
報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成します。語学番組の充実、インターネットサービスとの効果的な連携を図り、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、
報道番組10%以上を編成します。

FM放送

音楽・芸能を中心に文化・教養まで幅広く、リスナーの興味や関心に応える専門的な番組を編成します。また、災害などの緊急時には、ラジオ第1放送とも連携して機動的な編成を行います。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、
報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。